

# ボランティア活動の有効性に関する研究

佐野 友也 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 森川 みえこ

キーワード：ボランティア活動 教育実習 意識の変化

## 1. 緒言

現在の教育現場では、現場を取り巻く環境の悪化の対策としてスクールボランティア活動を取り入れている学校が増えてきている。ボランティア学生の協力によって学校教育を柔軟かつ有効的に進めることができ、また学生も実際の教育現場に触れる機会が増すことで、教育実習後の成果が良くなると期待されている。

そこで本研究では、ボランティア活動に参加した学生と参加していない学生の教育実習前後での、教育に対する意識の変化を調査し、ボランティア活動の有効性を検討する。

## 2. 研究方法

対象：B大学の教育実習に参加した学生 50名。  
(回収率 62.5%)

内容：「教員志望度」や「ボランティア活動の参加有無」等の質問内容であった。

処理：SPSS(statistics19)の対応のあるt検定によって統計処理した。

## 3. 結果・考察

今回のアンケート結果から、ボランティア活動に参加した学生のみが「コミュニケーション力」「子どもの好き嫌い」「教員志望度」の項目において有意差がみられた。ボランティア活動に参加していない学生についてはコミュニケーション力の項目で有意差が認められた。よって、ボランティア活動に参加した学生において実習後の教育に対する意識が変化していたことが考えられる。米沢の先行研究で教育実習に参加した学生の悩みに、授業のことで悩む学生よりも児童・生徒との関わり方で悩んでいる学生が多いと報告されている。今回の調査結果で

も、児童・生徒との関わり方に関する項目において有意差が出ていたことから、ボランティア活動に参加することで子どもとの触れ合い方に対する悩みが軽減されたことが考えられる。

ボランティア活動に参加した理由については、「実際の教育現場の雰囲気を知りたかった」や「実際の生徒と触れ合う機会だから」といった回答が多く見られた。

しかし、ボランティア活動参加者でも「教えることの興味」「教師行動に関する興味」「授業の難しさ」の3項目では実習後の意識の変化が見られなかった。このことは、本学で模擬授業を行っており、その経験によって授業の雰囲気を理解出来るためであると考えられる。

表1 ボランティア活動に参加した人、していない人の教育に対する意識変化の平均値

	参加			不参加		
	実習前 M(SD)	実習後 M(SD)	t値	実習前 M(SD)	実習後 M(SD)	t値
教えることの興味	4.95(1.10)	5.16(1.09)	0.44	4.44(1.50)	4.44(1.50)	1.000
子どもの好き嫌い	5.35(0.67)	5.57(0.63)	0.03**	5.11(0.78)	5.33(0.70)	1.69
教員志望度	5.03(1.04)	5.32(0.94)	0.14*	4.67(1.58)	4.67(1.50)	1.000
教師行動に対する興味	4.92(1.01)	5.11(0.84)	0.9	4.44(1.23)	4.44(0.88)	1.000
コミュニケーション力	4.68(0.88)	5.05(0.78)	0.00***	4.44(0.72)	5.00(0.70)	0.13*
授業の難しさ	2.54(1.30)	2.81(1.40)	1.43	2.22(1.32)	2.67(1.39)	2.25

## 4. まとめ

本研究では、ボランティア活動に参加した学生と、参加していない学生の教育実習前後での教育に対する意識の変化を調査してきた。その結果、ボランティア活動に参加することによって教育に対する意識が向上することが分かった。

## 引用・参考文献

春原淑雄(2010) 教職入門における模擬授業が思考力感に及ぼす効果 pp55-57